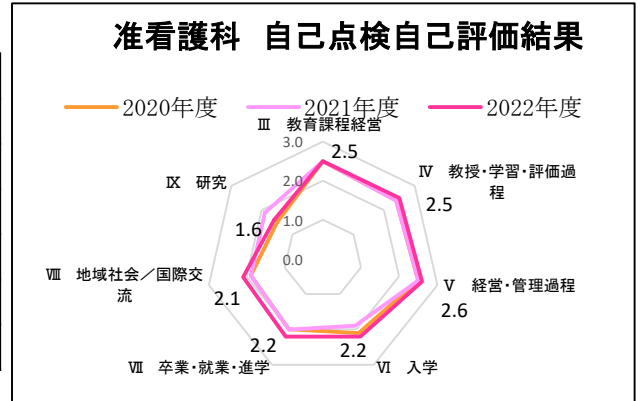


2020・2021・2022年度 自己点検自己評価結果 看護科

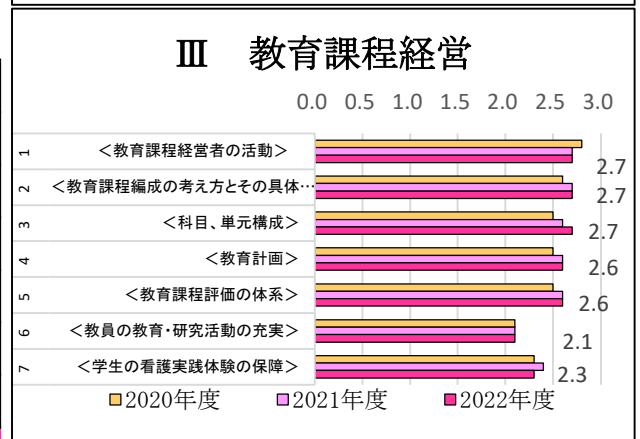
〈評価基準〉 3：当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない

	2020年度	2021年度	2022年度
III 教育課程経営	2.5	2.5	2.5
IV 教授・学習・評価過程	2.4	2.4	2.5
V 経営・管理過程	2.5	2.5	2.6
VI 入学	2.1	1.9	2.2
VII 卒業・就業・進学	2.0	2.0	2.2
VIII 地域社会／国際交流	1.9	1.9	2.1
IX 研究	1.5	1.9	1.6



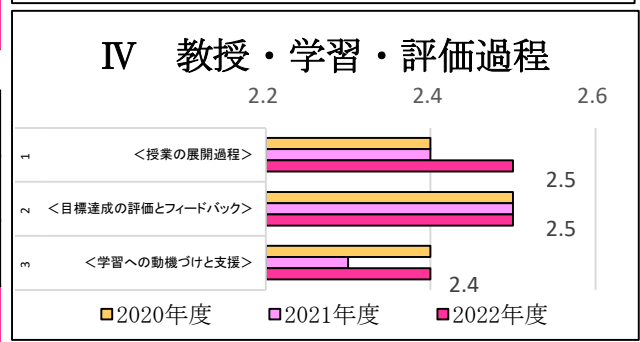
III 教育課程経営

	2020年度	2021年度	2022年度
1 <教育課程経営者の活動>	2.8	2.7	2.7
2 <教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	2.6	2.7	2.7
3 <科目、単元構成>	2.5	2.6	2.7
4 <教育計画>	2.5	2.6	2.6
5 <教育課程評価の体系>	2.5	2.6	2.6
6 <教員の教育・研究活動の充実>	2.1	2.1	2.1
7 <学生の看護実践体験の保障>	2.3	2.4	2.3
平均	2.5	2.5	2.5



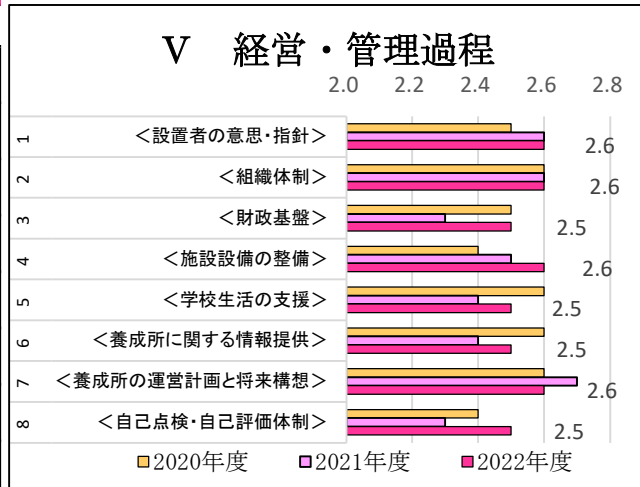
IV 教授・学習・評価過程

	2020年度	2021年度	2022年度
1 <授業の展開過程>	2.4	2.4	2.5
2 <目標達成の評価とフィードバック>	2.5	2.5	2.5
3 <学習への動機づけと支援>	2.4	2.3	2.4
平均	2.4	2.4	2.5



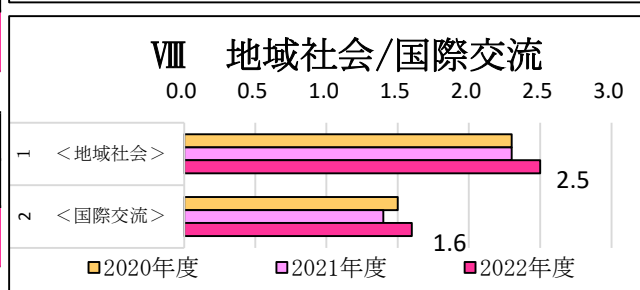
V 経営・管理過程

	2020年度	2021年度	2022年度
1 <設置者の意思・指針>	2.5	2.6	2.6
2 <組織体制>	2.6	2.6	2.6
3 <財政基盤>	2.5	2.3	2.5
4 <施設設備の整備>	2.4	2.5	2.6
5 <学校生活の支援>	2.6	2.4	2.5
6 <養成所に関する情報提供>	2.6	2.4	2.5
7 <養成所の運営計画と将来構想>	2.6	2.7	2.6
8 <自己点検・自己評価体制>	2.4	2.3	2.5
平均	2.5	2.5	2.6



VIII 地域社会／国際交流

	2020年度	2021年度	2022年度
1 <地域社会>	2.3	2.3	2.5
2 <国際交流>	1.5	1.4	1.6
平均	1.9	1.9	2.1



2022年度 重点課題に対する評価 看護科

1. カリキュラム改正に向けた取り組みを行う。

①改正カリキュラムの意図を組み入れた、教育課程の構築に向けて、月4回以上の検討会を行う。

②ディプロマポリシーを目指した魅力あるカリキュラムを作成し、資料を期限内に提出できる。

2023年度からのカリキュラム改正に向けて、講義・実習・会議等で時間の捻出が難しい中、検討会を週1回行い、ディプロマポリシーを目指したカリキュラム編成の資料を期限内に提出できた。県より3月に本校の看護師養成所の教育課程が変更承認された。

今回のカリキュラム改正の主旨は、地域包括ケアシステムを踏まえた教育内容とICT教育の導入である。また自由裁量が増えて柔軟なカリキュラム運営が可能になった反面、学校の独自性が問われてくるため、八女筑後地域の特殊性を踏まえたカリキュラムを検討した。現行(旧)カリキュラムでは過密スケジュールで学生は時間的にゆとりのない状況があり、課題もあった。そこで旧カリキュラムを継続しつつも本校の特徴として残したい科目と改正の意図を汲んだ新たな科目を吟味していった。その結果、旧カリキュラムでは66単位(2190時間)だったが、新カリキュラムでは69単位(2050時間)と単位数は3単位増えたが、総時間数は140時間削減した。このことにより、学生の主体的な学習や看護技術練習の時間の確保ができるのではないかと考える。

この目標に対する教員の4段階評価では3.8であり、十分な意見交換ができ、納得いく魅力あるカリキュラム編成と期限内に資料提出が出来たと考える。2023年度は旧カリキュラムと新カリキュラムが並行する教育となる中、より良い教育を実施していく必要がある。

2. 専門的な知識・技術を向上させ、社会が求めている人材教育(社会人基礎力の育成)に努める。

①学生の学習意欲と技術の向上ができるように、学生個々に応じたサポートをする。

②専門職として主体的に学ぶ姿勢、自ら考える力を持つことができる関わりを行う。

看護科では、職場や地域社会で多様な人々と仕事をするために必要とされている「社会人基礎力」である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の育成を意識して行ってきた。

卒業時、学生のカリキュラムに対する評価では「専門的な知識が身についたか」の問いに対しては95%、「専門的な技術が身についたか」の問いに対しては97%が肯定的に答えている。また、コロナ禍においてもできる限り全員が臨地実習にいけるように別の病院へ実習依頼をしたことで、ほぼ実習に行くことができた。「実習の教育内容に満足か」の問いに対しては、82%が肯定的に答えている。これらの結果から学生は、卒業時点には専門職としての基礎的な力を身につけたと考える。

また「個別指導、進路相談など学生をサポートする体制が整っているか」の問いに対しては、肯定的意見が昨年の1年次に比べると34%減少し、2年時は50%となった。その要因として2年次は実習、就職、国試と学生の乗り越える課題が多く、教員へ求める支援も大きくなる。一方2022年度教員は講義、実習指導、各役割業務の上に改正カリキュラム検討会と特に忙しい状況だった。その分学生へ関わる時間が例年に比し、厳しい状況にあったのではないかと考える。1年生に関しては、同じ項目で肯定的意見が97%と高かった。2月に基礎看護学実習があり、特に実習では個々に応じた指導が求められる。前年度の反省として「1年生への関わりが十分ではなかった」との意見から、教員一人ひとりが1年生のサポートを強化した結果ではないかと考える。①「学生個々に応じたサポート」については教員評価は3.2であったが、②「主体的に学ぶ姿勢、自ら考える力を持つことができる関わり」においては3.0であり、「主体的学習や自ら考える姿勢」を教育することは、厳しいと感じるとの意見であった。更に就職支援について、昨年は肯定的意見が72%であったが、今年は80%に上昇した。学生の進路に対しては改善できたと考える。新カリキュラムでは、ゆとりの時間が確保できたので、社会人基礎力の育成に活かしていく。

3. 本校で学んだことに誇りを持たせ、満足できるような教育を行うことで、学生確保に努める。

①看護師国家試験の全員合格を目指す。(V6を目指す)

②達成感が持てるような関わり(できているところに目を向け、誉める、気づかせる)をすることで、満足感を高める。

看護師国家試験全員合格に導くための対策として、業者模試を9回、業者による特別講義を4月と7月に実施し、学生の取り組みを支援した。また、対策強化ゼミを全員に臨ませた。更に成績低迷者を対象とした学外講師と学内教員による補習講義を1月に58時間行った。コロナ感染症の罹患で受験不可とならないように注意喚起を行い、罹患者や濃厚接触者に対してはオンラインで実施した。その結果全員が無事に受験でき、合格状況は1人の不合格者があり、6年連続全員合格は達成できなかったが、合格率は97.4%であった。(新卒者全国平均95.5%)教員の4段階評価は3.7であり、学生の卒業時カリキュラムに対する評価の「国家試験対策(模擬試験・特別講義・補習講義)に満足しているか」の問いに対しては、肯定的な意見が前年度より2%上昇し90%となった。

学生アンケートで「全体的に本校で学んだことに満足か」の問いに対しては、肯定的意見が1年生は100%、2年生は97%だったことから、学生は満足感を得ることができたと考える。学生の意見には「褒めてもらえてうれしかった」とあった。しかし教員の評価では「できているところに目を向け、誉める、気づかせる」ことに関して3.0であり、一部の意見として「心掛けてはいるがなかなか難しい」とあり、専門職教育にはある程度の厳しさも必要であり、教育手法の難しさを感じていることが伺える。

以上のことから今後も引き続き国家試験対策を工夫し、全員合格を目指す。また学生の“強み”に目を向け、誉める関わりを意識しながら、学生が満足できるような教育を行うことで、更なる学生確保に努めていく。

2023 年度 重点課題 看護科

1. 新カリキュラムに掲げた教育方針を目指し実践する
 - ①教育内容について不確かな事柄については、速やかに教務会議で検討を行う
 - ②ディプロマポリシーを意識し、学生個々の能力を引き出すかかわりの実践
 - ③ICT 教育実践のため、オンライン授業を月に 1 回実施する

2. 学生の学習意欲と技術が向上できるように、学生個々に応じたサポートを行う
 - ①看護技術の到達レベルを学生自ら意識して、各技術項目の到達度を達成できる
 - ②卒業時のアンケート調査で「学生のサポート体制」における肯定的意見の 70%を目指す
 - ③オープンキャンパスの内容を充実させ、学生確保（定員充足率 90%）に努める

3. 看護師国家試験の全員（既卒者を含め）合格を目指す

4. ワークライフバランスの取れた働き方を目指す
 - ①各自が時間管理を意識し、業務の見直し、超過勤務にならないよう皆でサポートし合う